

11月度 <small>例会</small> <b>山行報告書</b> <small>個人</small>		報告者	大矢康裕	参加 メンバー	CL:大矢康裕 浩貴
		報告日	11/14		
山域	鈴鹿	山行日	07年 11月 10日(土)		
山名	御在所岳				

山行目的	山歩きに慣れる	コースタイム(天候:天気図記号)
------	---------	------------------

配布先  
集会:12  
山行:1  
リーダー-  
原紙:集会担当者

ルート図(地図を見て正確に)

2.5万分の1地図: 御在所山

11/10 曇
9:00 名古屋発
10:20 武平峠下
10:45 発
11:00 武平峠
11:30 展望台
12:00 発
12:40 御在所岳
13:05 発
14:05 武平峠下
17:00 名古屋着

山行報告 10/13 の富士山から始まって、伊吹山、猿投山、御嶽山と続いて、今回が5週連続の山行となる。さすがの私も疲れが溜まっていて、御在所岳の登山ルートの中では最短の武平峠道を選択する。朝鮮半島の寒冷低気圧から日本の南海上の停滞前線に向かって伸びる気圧の谷の影響で、雲が多い天気となったが、当初の予想より停滞前線上の低気圧の発達が遅くなり、天気は持ちそうである。湯ノ山から、紅葉の山腹を縫って、通称『御在所スカイライン』を車で登っていく。猛暑の影響か、冷え込みが足りないのか、紅葉のピークにはまだ若干早い。それでも赤や黄色の色彩は目を和ませる。武平峠下のトンネル手前の駐車場に車を止めて、登り始める。長男のペースに合わせて、ゆっくり登ること15分ほどで武平峠に着く。長男曰く、『空気が薄い』。武平峠で標高880mだが、1000mで気圧は約100hPa低下し酸素は平地の90%で、子供は敏感に気圧の低下を感じ取るのかも知れない。ここから県境稜線を御在所岳に向かって登る。武平峠から30分登ったところに鎌ヶ岳を望む絶好の展望台があり、一休み。降りてくる人、登ってくる人が結構多く、御在所岳が鈴鹿でもポピュラーな山だと感じさせる。ここから少し登ったところに、ちょっとした岩場があり慎重に通過する。大人なら大したことはなくても、子供は要注意。以前、ここで泣きべそをかいている小学生高学年の子供を見たことがある。ウチの坊主も少しひびいたようだ。この岩場を越えると、あとは順調に高度を稼ぎ、御在所岳の山頂に続く整備された道路に出た。ここからは、ロー

プウェイで登ってくる人もおり、急に人が増えてにぎやか。ただ残念ながら、頂上ではガスがかかり、全く眺望が効かない。この三角点は、ロープで囲ってあり踏むことができないという珍しいピーク。ロープを乗り越えて踏む不屈者はいるかもしれないが、頂上を後にして、1ピッチで武平峠下の駐車場まで下り、湾岸長島PAでのんびりしてから帰宅。

フリースペース  
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に

確認  
(リーダー)  
大  
07/11/10  
矢  
作成  
(報告者)  
大  
07/11/10  
矢

リーダー所見 何度か山登りに連れて行っている成果か、最初の頃に比べると、山の下り方が少し上手になった。山は気に入っているようなので、無理のない範囲内で今後も山行を計画したい。



紅葉の鎌ヶ岳方面を望む